

SGH「理系～橋について学ぶ」リポート 2

① 7月17日(木) 講義「アセアン諸国における橋梁形式」

7月17日は京都大学工学部地球工学科と連携し、同大学院工学研究科大津宏康教授による最初の講義が行われました。前半は、アジア地区における20世紀以降の橋梁建築の歴史について材料の推移との関連にもとづいて解説していただきました。地震・台風・干ばつ等、自然災害の事情が地域によって異なり、橋梁設計にも大きく関係することを知りました。後半は、海外での橋づくり等のプロジェクトにおいてその国の文化的および宗教的な習慣の違いを考慮することの大切さについての話題でした。プロジェクトを実施する上で国や地域に特有の状況や支障となる要因(カントリーリスク)への配慮が不可欠であり、そのためにはまず我が日本固有の価値観・倫理観をよく理解する必要があると強調されていたことが印象的でした。

終了後には生徒からも数多くの質問が出て、とても興味深い講義内容であったことがうかがえました。



② 7月24日(木) 講義「橋入門 Introduction of Bridge Structures」

7月24日は京都大学工学部地球工学科と連携し、同大学院工学研究科杉浦邦征教授による英語での講義「橋入門 Introduction of Bridge Structures」が実施されました。この講義は、ケニアの大学生対象に実施されたものと同じ内容のものです。橋の基本的な知識から最新の技術まで図や写真を用いて英語で説明していただきました。高度な内容がわかりやすく解説され、とても良い勉強になったようです。アジアを含む各国のさまざまな種類の橋について、海外での技術指導の経験を交えてお話いただき構造力学の基本事項を学ぶことができました。

興味深いお話で65分間の英語の講義をあっという間に感じた生徒もいたようです。橋に関する知識や科学技術の重要性、海外での技術協力の意義についても学ぶことができました。

